

# 令和6年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	大正区
学 校 名	平尾小学校
学校長名	飯塚 博恭

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和6年4月18日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

## 1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査内容

### (1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

### (2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

## 3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・平尾小学校では、第6学年 50名

## 令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

平均正答率を全国と比較すると、国語－0.7%、算数－8.4%となり、国語はほぼ同水準（大阪府より＋0.1%）となった。令和3年度は全国平均との差が国語－12.7%、算数－14.2%であり、本校が令和2年度より研究に取り組んでいる教科の国語科において、確実に全国との差は縮まってきている。また、算数においても国語の学習を通して培った「言語力」を生かして、筋道を立てた思考や説明する力が身についてきている。しかし、数と計算領域においては、成果が表れていない。また、平均無回答率が国語0.9%、算数1.0%と全国と比べても解答を書く児童の割合が非常に高く、児童の学習意欲の高まりを感じられる結果であった。

教科に関する調査より 各教科において全国・大阪府の平均正答率を上回っている問題があり、以下の点について成果が見られた。

## 分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕問題2三“「目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる」”、問題3二（1）“「登場人物の相互関係や心情などについて、描写を基に捉えることができるかどうかをみる」”において、全国・大阪府の平均正答率を大きく上回った。これは、本校で令和4年度から学力向上と密接にかかわる国語科指導の研究に取り組み、特に教材文分析に注力していることや、大阪市取組施策の学力向上支援チーム事業の継続した取り組みが、大きな成果として表れていると考えられる。

〔算数〕問題3（3）“「球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる」”では、全国・大阪府の平均正答率よりも大きく上回る結果となった。これも、教員による授業改善と大阪市取組施策の学力向上支援チーム事業の放課後学習を開始した成果が表れていると言える。

質問調査より

「（64）今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか」の質問項目において、肯定的な回答が全国・大阪府の平均率を上回る結果となった。これは、大阪市取組施策の「ブロック化による学校支援事業」での学びサポーターや主幹学校司書などの人的支援も活用し、すべての教職員が子どもに繰り返し達成感と所属感を味わわせる指導を積み重ね、子どもの自己肯定感を高めることで何事にも前向きに取り組む、最後までやり抜く姿勢を育ててきた成果である。

また、「（29）5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか」においても最も肯定的な回答の割合が全国平均を上回った。これは、大阪市取組施策の学力向上支援チーム事業のスクールアドバイザー支援による授業力向上や、学校教育ICT活用事業による学習者用タブレットの活用に注力してきた成果である。

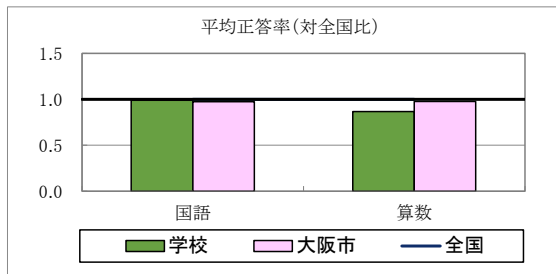
## 今後の取組(アクションプラン)

- ・今後も子どもに繰り返し達成感と所属感を味わわせる指導を積み重ねることで、子どもの自己肯定感を高め、何事にも前向きに取り組む、最後までやり抜く姿勢を育てていく。また、学習規律の指導をさらに進める。
- ・国語科、算数科を中心に主体的・対話的で深い学びの指導法についての研修を計画的に推進する。
- ・ICT支援員の学校訪問を活用して、ICT機器環境の充実や学習効果を高める活用法についての実践研修を計画的に推進する。
- ・主幹学校司書がサポーターを兼務し週5日配置され、学校図書館開放や読み聞かせの機会が増加した。これを基盤に、さらに子どもたちが本に親しめるような読書環境の整備を図り、文章に触れる機会を増やすとともに、感じたことを表現する力を高められるような取り組みを推進する。

## 【 全体の概要 】

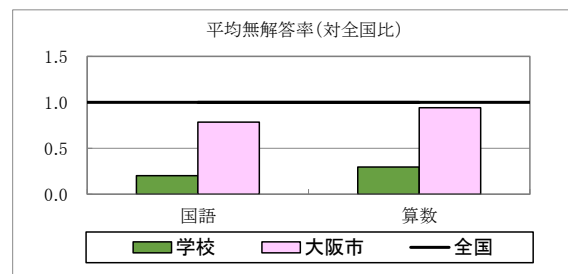
### 平均正答率（％）

	国語	算数
学校	67	55
大阪市	66	62
全国	67.7	63.4



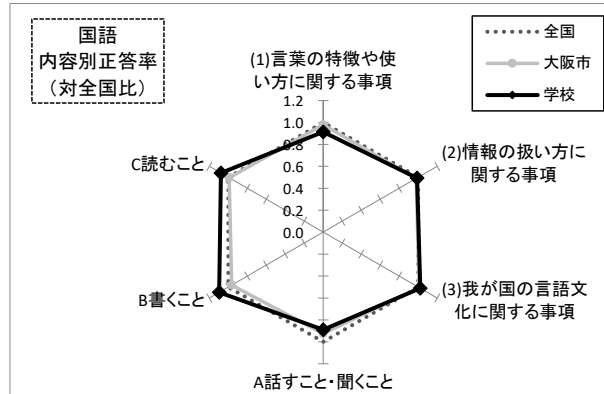
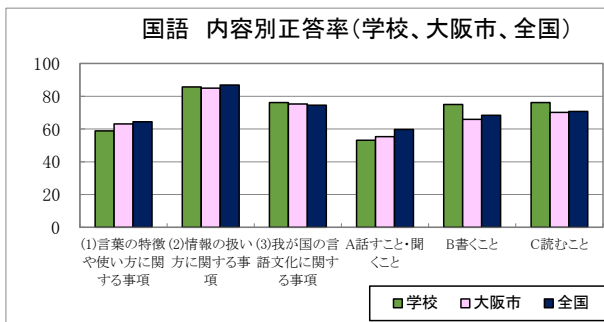
### 平均無解答率（％）

	国語	算数
学校	0.9	1.0
大阪市	3.3	3.2
全国	4.2	3.4



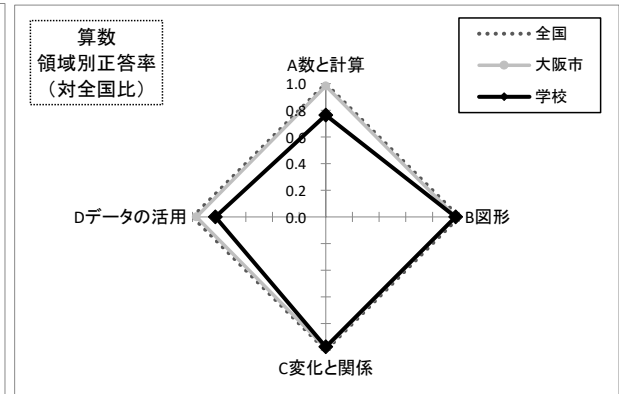
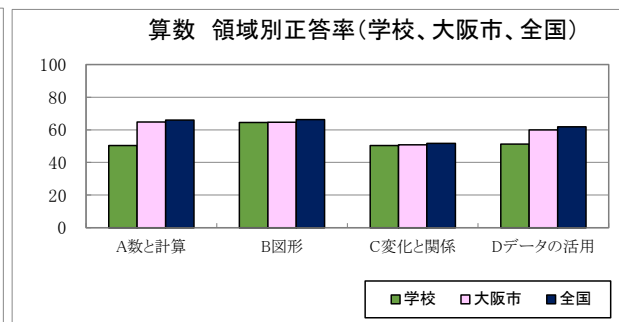
## 【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	4	58.9	63.1	64.4
(2)情報の扱い方に 関する事項	1	85.7	85.0	86.9
(3)我が国の言語文 化に関する事項	1	76.2	75.3	74.6
A 話すこと・聞くこと	3	53.2	55.3	59.8
B 書くこと	2	75.0	65.9	68.4
C 読むこと	3	76.2	70.1	70.7



## 【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	50.4	64.8	66.0
B 図形	4	64.5	64.6	66.3
C 測定	0			
C 変化と関係	3	50.4	50.8	51.7
D データの活用	4	51.2	60.0	61.8



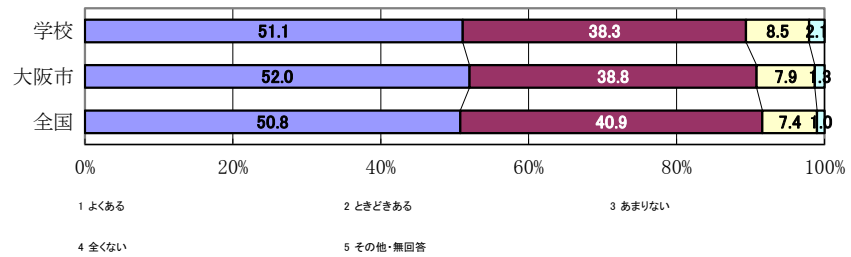
## 児童質問より

質問番号

質問事項

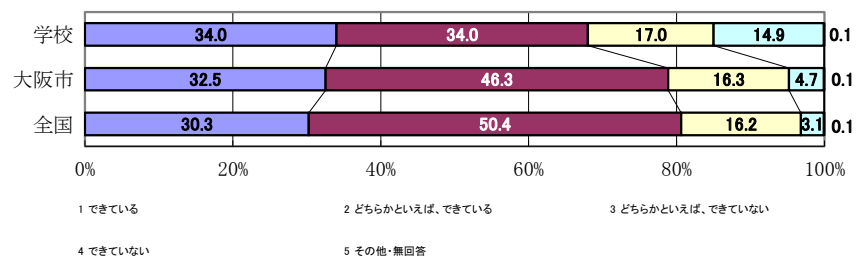
19

普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか



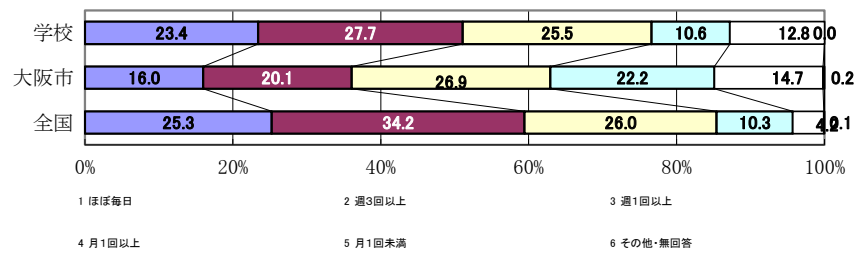
20

分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか



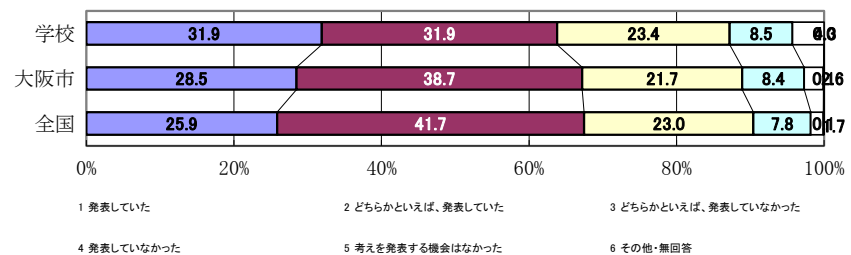
27

5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか



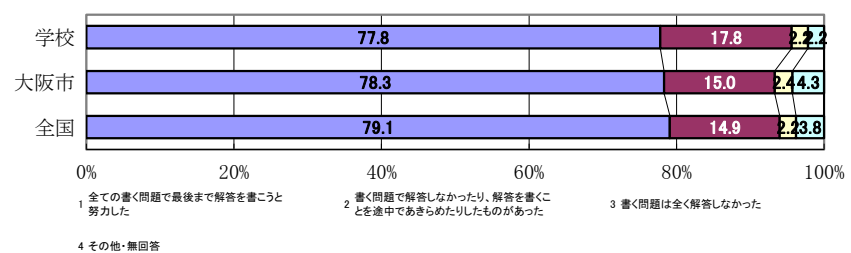
29

5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか



64

今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか



## 学校質問より

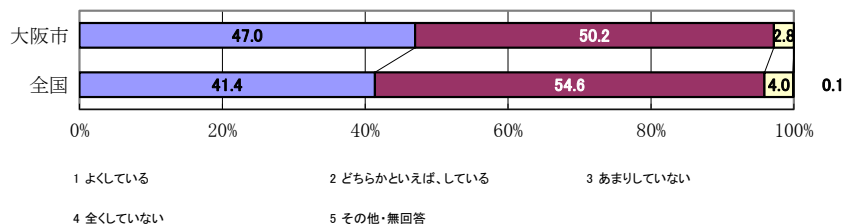
質問番号  
質問事項

15

言語活動について、国語科を要しつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいますか

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

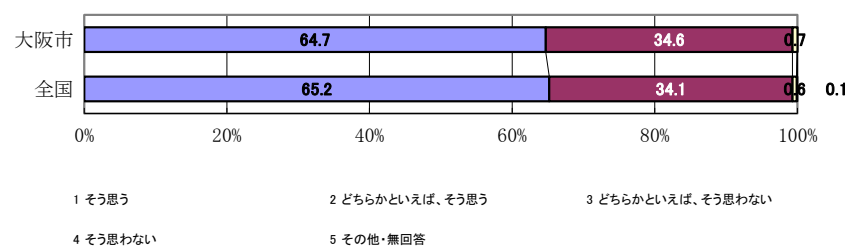
### 学校「よくしている」を選択



20

学校運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、改善に向けて学校として組織的に取り組んでいますか

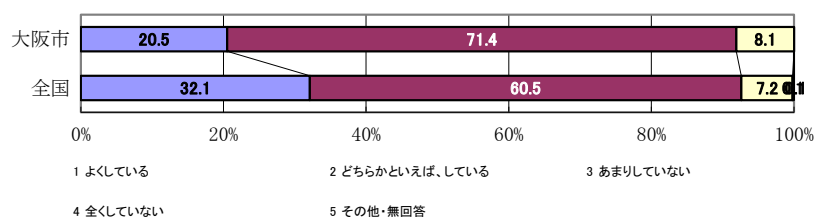
### 学校「そう思う」を選択



38

調査対象学年の児童に対して、学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話し合いを生かして、一人一人の児童が意思決定できるような指導を行っていますか

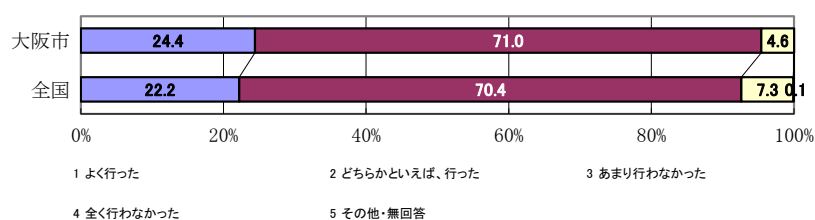
### 学校「よくしている」を選択



42

調査対象学年の児童に対する国語の授業において、前年度までに、目的や意図、場面の状況に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、話す内容を検討することができるような指導を行いましたか

### 学校「よく行った」を選択



43

調査対象学年の児童に対する国語の授業において、前年度までに、目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書くことができるような指導を行いましたか

### 学校「よく行った」を選択

